

A グループ:船井財団について(奨学金制度、イベント)

船井情報科学振興財団(以下、船井財団と略記)は、船井電機会長の船井哲良氏が私財を投じて2001年に設立された公益財団法人です。船井財団の海外留学生に対する奨学金(Funai Overseas Scholarship、以下 FOS と略記)は、海外の研究大学の大学院で Ph.D. の取得を目指して留学する者をサポートするものです。今年(2014年)を以って、船井財団は創立15年を迎え、2009年から始まった FOS は5年目を迎えました。FOS は留学支援を目的にした奨学金の中で比較的新しい奨学金であることもあり、その制度は非常に柔軟です。

まず、奨学金が対象としている分野は情報科学・情報技術が中心とされていますが、その他にも航空宇宙工学や機械工学から物性科学などの理工学系、さらに経済学やデザインを含む幅広い分野の留学に対してもサポートが行われています。今年度は創立15年を記念して、MBA 留学にも2名程度支援することになっています。この点からも窺えるように、FOS は上記の通り、原則として博士号の取得を目指す者に対する奨学金ですが、設立者の船井会長自身が起業家でいらっしゃることもあり、アカデミア人材だけでなく、アントレプレナーシップ人材の養成も視野に入れています。実際に FOS によって修士課程への留学を支援され、修士号を取得した後に起業した奨学生もいます。このことから、分野の限定は実質的にほとんどなされていないと言えます。

専攻分野以外についても、あまり制約がありません。日本国籍を持っていることが基本的な条件です。他の奨学金では30歳未満といった年齢制限を設けているものが多いですが、FOS ではそのような年齢制限がありません。日本の科学技術分野の発展に寄与することを目的していますが、博士号の取得後に日本に帰国することを要求していません。

FOS は、財政面についても非常に寛大と言えます。原則二年間、授業料と医療保険費を全額支給していただき、さらに生活費を US ドル建てで月額 2,500 ドル支給していただけます。これに加えて、支度金や渡航費といった留学当初の準備費用も頂けます。授業料の支払いでは、学生側に立て替えの必要がありません。留学前のサマースクールのサポートもしていただけるので、留学準備の段階からお金の心配をすることはありません。必要に応じて延長が可能です。また、FOS の内定は毎年11月に出ており、多くの大学院の出願時期より前に内定をいただけるので、大学院の出願書類の中に奨学金の内定した旨を記述することができ、これは出願書類上の1つの大きな武器になります。他の奨学金では、このように奨学金の内定が大学の出願時期に間に合わないものもあります。

船井財団は、FOS 奨学生同士の交流を深めるための機会も多く提供してくださっています。FOS 交流会は、昨年より年に一回行われており、昨年はニューヨーク、今年はワシントン D.C.で開催されました。この交流会はこれまでの奨学生が一同に会する場であり、留学開始年度をまたいだ奨学生同士で交流を図ることができる貴重な機会になっています。これは、留学開始年度を同じくする奨学生同士ではなかなか知り得ない就職活動の話なども聞けるのが大きいです。このような機会は他の財団で用意されていることは稀ではないでしょうか。交流会では、ノーベル賞受賞者や世界で活躍するトップクラスの研究者、起業家などと直接接する機会を作っていただいております。これも奨学生にとって大変貴重な機会です。交流会の他にも、日本で忘年会や留学壮行会などのイベントが行われています。このような交流の機会を多く頂いているので、奨学生同士の仲間意識は強く、比較的つながりが強くなります。

以上のように FOS は魅力的な奨学金であるので、年々出願者は増加傾向にあり、それに伴って審査も厳しくなっています。審査では、大学院出願の際に必要な書類ほぼ全てを提出する必要があり、より実際的な選考と言えます。FOS では留学生の支援先をトップスクールに限ろうとしています。これは、後の世代へのアピールを考えるとそうならざるを得ない部分もあります。情報科学技術系が中心の財団ということもあり、それらの研究が盛んなアメリカへの若干のバイアスを感じるものの、全体としては非常に良い奨学金であると言えるのではないのでしょうか。

グループメンバー:岡本一秀、勝谷郁也、森亮、潮田佑、荒木淳、(高野陽平)

文責:篠原肇